

れんけつ れんけつ！

きょうの てんきは ぽっかぽか
ちいさな ネズミきかんしゃは きてきを ならして きょうも
げんきに チュッチュ ポッポー

チーズをガンガン カマにいれ

きいろい けむりを もくもくだして

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

おや? むこうで だれかが てを ふってるぞ。

「あまりにも おひさまが きもちよくて わしの きかんしゃが
ねてしまったんじゃ」

ネコきかんしゃの しゃしょうさんは あくびをしながら いいま
した

「じゃあ、 ネズミきかんしゃで えきまで ひっぱっていきまし
よう」

そーれ れんけつ れんけつ

ひろい はたけを よこぎって

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

おや？ むこうで だれかが てを ふってるぞ

「ちょっと、ケンカをしてしまって ぼくのきかんしゃが すねてしまったんだよ」

ゴリラきかんしゃの しゃしょうさんは あしをふみならして いました。

「だいじょうぶ、ネズミきかんしゃで えきまで ひっぱっていきましょう」

そーれ れんけつ れんけつ

みどりの はらっぱの まんなかを

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

チュッチュ ポッポ チュッチュ ポッポ

おや？ むこうで だれかが てを ふってるぞ。

「とっても くいしんぼうで わたしのきかんしゃが ねんりょうの リンゴを ぜんぶたべてしまったんだ」

ゾウきかんしゃの しゃしょうさんは ひげを なでながら いました。

「いいですよ、ネズミきかんしゃで えきまで ひっぱっていきましょう」

そーれ れんけつ れんけつ

かわに かかった おおきな はしを

チュツチュ ポッポ チュツチュ ポッポ

チュツチュ ポッポ チュツチュ ポッポ

おや？ むこうで だれかが てを ふってるぞ。

「どうも はしるのが にがて みたいで ぼくのきかんしゃが
つかれてしまって うごけないんだ」

カバきかんしゃの しゃしょうさんは うでをくんでいいました。

「わかりました、ネズミきかんしゃで えきまで ひっぱっていき
ましょう」

そーれ れんけつ れんけつ

おおきな うみを よこめで みなながら

チュツチュ ポッポ チュツチュ ポッポ

チュツチュ ポッポ チュツチュ ポッポ

おや？ むこうに なにか かいてあるぞ。

かんばんには おおきな もじで このもり たちいりきんし と
かかれています。

どうやら みちをまちがえて しまったようです。

「こまったな、せんろを もどらなきゃいけないぞ」

ネズミきかんしゃの しゃしょうさんは あたまを かかえて し
まいました。

すると ゴリラきかんしゃの しゃしょうさんがいました。

「ここからは ぼくがひっばろう ゴリラきかんしゃも うみをみ
てたら どうやら きぶんが なおったようだ」

そーれ れんけつ れんけつ

ゴリラきかんしゃは えだから えだへと どんどん もりを ぬ
けていきます。

うほ うほ ポッポ うほ うほ ポッポ

うほ うほ ポッポ うほ うほ ポッポ

おや？ むこうに なにか おおきなものが みえてきたぞ。

おおきく みえたものは たかい たかい おかでした。

ここからさきは とても のぼれそうにありません。

「さっきのもりで たくさん リンゴを つめたおかげで どうや
ら ちからがでそうだよ。ここは わたしの きかんしゃが ひっ
ぱりましょう」

ゾウきかんしゃの しゃしょうさんがいました。

そーれ れんけつ れんけつ

ゾウきかんしゃは ちからづよく ぐんぐん のぼっていきます。

パオパオ ポッポ パオパオ ポッポ

パオパオ ポッポ パオパオ ポッポ

おや？ むこうのほうで なにか キラキラ ひかっているぞ。

キラキラと ひかっていたの ひろい ひろい みずうみです。

ここからさきは とても いけそうにありません。

「ここは ぼくに まかしてくれ。みずのなかは とくいだからね
さあ、みんな うしろにならんで ならんで」

カバきかんしゃの しゃしょうさんは いいました。

そーれ れんけつ れんけつ

カバきかんしゃは みずうみのなかを すいすい すすんでいきま
す。

ブオブオ ポッポ ブオブオ ポッポ

ブオブオ ポッポ ブオブオ ポッポ

きかんしゃたちは なんども せんとうを こうたいしながら せんろを はしっていきます。

チュッチュ ポッポ

ウホウホ ポッポ

パオパオ ポッポ

ブオブオ ポッポ

おかこえ やまこえ はやしをぬけて・・・

そして やっと もとのせんろに たどりつきました。

みんな おおよろこびです。

おや？ あたりが だんだん うすぐらく なってきたぞ。

ひが すっかりしずんで おつきさまが かおだしました。

ネズミきかんしゃの ちいさなライトでは ほとんど さきが みえません。

「どうしよう、まったく まえが みえないぞ」

すると いちばん うしろの ネコきかんしゃの めが パチリと ひらきました。

「あ～あ、よくねたわい。もうこんなじかんか。ここは わしの
きかんしゃに まかせてもらおう」

ネコきかんしゃの しゃしょうさんが おおきく せのびをして
いいました。

そーれ れんけつ れんけつ

ネコきかんしゃは めから ひかりを ピカピカ だしながら す
すんでいきます。

にやにや ポッポ にやにや ポッポ

にやにや ポッポ にやにや ポッポ

にやにや ポッポ にやにや ポッポ

にやにや ポッポ にやにや ポッポ

にやにや ポッポ にやにや ポッポ

むこうに おおきな ひかりがみえてきました。

まちです。

えきにちかづくとき かんしゃたちは いっせいに きてきを な
らします。

チュ チュ チュー

うほ うほ ほーい

パオ パオ パオーン

ブオ ブオ ブオーン

にやっ にやっ にやーおん

みんな えき ぶじに とうちやくしました。

おつかれさま